

活動名 非行少年の更生と福祉に関する諸活動	団体名	山口少年友の会
	地域	山口県山口市
	代表者	会長 石村 太郎
	支援金額	15万円
活動概要		
<p>一言でいえば「家庭裁判所に協力して行う非行少年の更生と福祉に関する実践活動」ということになるが、内容は以下のとおり多彩である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家裁や関係機関における非行少年取り扱いの実情や非行理解のための研修活動 2 保護者がいないなど家庭不遇の非行少年に対する親代わりの付添人活動および福祉的経済支援活動 3 家庭裁判所が行う再非行防止のための教育的活動に対する支援活動 4 会員への意識高揚、知識伝達等および他の会との間の活動情報交換等のための広報活動(広報誌発行等) 5 他の会との情報、意見交換のための懇談会(中国地区と全国の2回) 6 会運営のための総会、理事会、各部会等の開催 <p>◆実施時期：2009年4月1日から2010年3月31日の間 主として山口家庭裁判所内であるが、付添人活動では山口少年鑑別所に出向くことが多く、また研修では現地施設見学等もある。</p> <p>◆参加人数：129名</p>		



《家裁調査員との意見交換会》



《児童相談所見学》



《保護観察について研修》



《全国50会に送付した広報3,4号》

◆実施に伴う効果

本会の活動は、日常活動をする普通会员の会員資格が裁判所調停委員(元職を含む)に限定されており、活動の中心が家庭裁判所への協力となっているので、一般市民に公開された活動にはなりにくい特徴がある。したがって、活動は家庭裁判所の理解と信頼が前提となる。その意味ではこの一年間の活動は活動量が増え内容もより深く非行少年に関わるようになってきていることから、活動の効果は上がっていると言える。各種活動を行う中で、会員による活動への理解も深まり、より多くの会員が活動に従事するようになってきている。対外的には、弁護士会、少年鑑別所、保護観察所、児童相談所、児童自立支援施設、市社会福祉協議会等の関係団体からの理解も深まっている。養護施設の児童が高校進学するに当たり児童相談所から、以前その児童の付添人を担当した友の会会員2名に激励の面接を依頼された例があった。

◆苦労した点

[予算]

予算の確実な原資は会費のみであり、あとは不確定な寄付に頼っている現状なので、運営に苦労する。単年度で見れば、ときに赤字決算となる恐れもあるので、支出の抑制と寄付の勧誘に努めている。付添人活動費用については付添件数が不確定であり予算見積もりに苦労する。

[外部へのPR]

少年友の会の活動は守秘義務を伴う活動が多く、ほとんどの活動は会員の範囲で行われている。したがって外部にPRして行う活動は今のところない。他のボランティア団体には当会の紹介をする程度にとどまっている。

[参加者]

会員100名程度の内訳は賛助会員(資金援助会員)20名程度、普通会员(活動会員)80名程度であるが、普通会员のうち30名程度が元調停委員で高齢者となっており実際の参加は限られる。したがって実働会員は50名程度となるが、自営職業者も含まれているので実際に活動する会員の数は30名以下となっている。結局一部活動会員に過重な負担がかかりやすいのでいかに活動を会員に広げるか苦労がある。

[地域の理解]

会員には地域でいろいろの活動をしている者も多いので、それらを通じて少年友の会の活動が知られ、理解されつつある。研修講師に地域の有識者を招いたり、関係機関の研修、見学等の機会に当会の説明もするので理解は進んでいる。'10年4月からは山口市ボランティア連絡協議会に加入するので、当会の理解が一層進むと思われる。

◆今後の課題・発展の方向性

[活動]

活動がまだ限られた分野にとどまっているので、さらに家裁講習への協力度を高めるとか、社会奉仕活動への取り組みをすとか課題は多い。

[研修]

活動を広げるためには会員の活動能力を養成することが前提であるので、さらに活動の実際についての経験を踏まえた勉強会、研修会などを充実する必要がある。

[予算]

活動資金の安定的確保については難しい問題があるが、会員数の増強や寄付金の勧誘などが基本になる。ただ、当会はボランティア団体であり、活動の基本は無償奉仕活動であるので、支出を切り詰め健全財政を図る努力が必要である。

[発展の方向性]

当会は家庭裁判所の業務の上に活動が成り立っている部分が多いので、常に家庭裁判所と連携を取り、家庭裁判所からの援助要請にいつでも応じられるように会としての力量を蓄えておく必要がある。同時に、非行防止や再非行防止に向けての当会として独自活動を工夫し、地域とも連帯できる活動を求めて行く必要がある。

◆活動を終えての感想・意見等

当会が発足して実質2年目において思いがけずマツダ財団からの支援を受けることができ、会員一同どれだけ大きな喜びと励みを受けたか計り知れないものがあつた。当会は継続的な活動であり、これからの課題も多いが、今後とも非行少年の更生・福祉という社会の下支え的活動を地道に続けて行きたい。引き続きのご理解とご支援をお願いしたい。